

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	NPO 法人 福島こども保養プロジェクト@練馬 記録グループ
支援対象者・エリア	福島県
企画開催地	東京都練馬区
企画名称	福島のことともたちの保養に関するニュースレター作成事業
実施期間	2020年4月1日～2021年3月31日

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

(目的) 2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故後、福島県をはじめ放射線の高い地域に暮らしていることもたちに、少しでも線量が低い地域でたっぷり外遊びをしてもらい、心身のリフレッシュをはかってもらいたいと考えている練馬区民が集まり、任意団体として2011年6月に設立。その後、より継続的な活動をするため、2013年9月にNPO法人化。

(今年度の取組み)

昨年の4月より、夏の保養キャンプを実施予定だった埼玉県飯能市の大平ハウスの環境整備などで活動をしていた。その後、新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、夏の保養キャンプは中止となった。そのため、「記録グループ」として報告集にかわるニュースレターの作成を検討した。9月、10月に編集会議(オンライン含む)をもち、今年の1月には2,000部印刷完了。キャンプ参加者、キャンプなどの協力者、支援者、会員、賛助会員などに400通ほど配布、発送をした。

コロナ禍のなか、8月には2日に分けて、保養キャンプに参加した方々にお声をかけ、オンラインでネットお茶会を行い17名が参加した。(福島から5名、練馬12名) また、9月に保養キャンプボランティア交流会を企画し、オンラインを含め若いボランティアを中心に25名の参加があった。また、2月7日には、練馬にて講演会&コンサート「福島のいまを語る 10年を唄う」を企画した。講演は朝日新聞社の青木美希さん、コンサートは、福島県いわき市より東京に避難し音楽活動を続けているYukariさんにお願いし、120名ほどの参加があった。3月には、練馬区江古田にあるギャラリー古藤での「3・11福島を忘れない第10回江古田映画祭」に活動の様子を紹介したパネル展示を行った。

(取組みと感想)

残念ながら、夏の保養キャンプは実施できなかったが、オンラインを通じての交流や講演会&コンサートを開催することができた。特に2月の講演会&コンサートでは、東京電力福島第一原子力発電所の事故から10年がたっているが、まだまだ様々な問題を抱え苦しんでおられる方がいることを強く感じた。

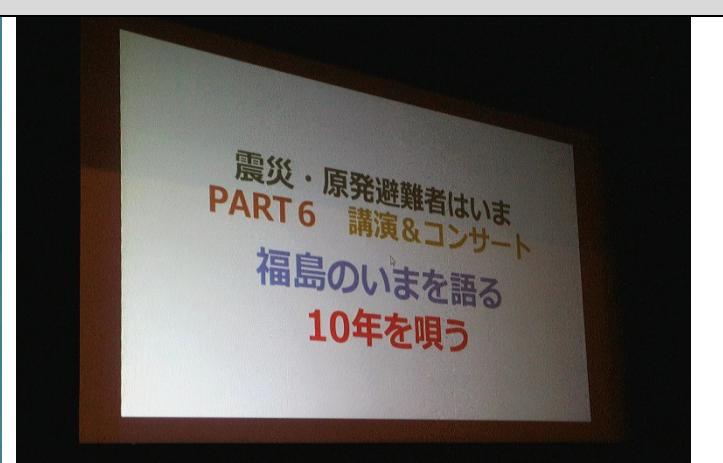
ニュースレターの発送後、様々な感想をいただいた。何より今までの保養キャンプの参加者から、近況などを教えてくれる手紙などがあった。コロナ禍ではあるが、ニュースレターを通して私たちが福島のことを忘れておらず、つながっていることを認識できた。

また、練馬区内にある武蔵大学の学生から取材をうける機会があった。地域活動として保養に関心をもつ学生や卒論で「保養」をテーマとして取り組む学生からの問い合わせは、今後も活動を続けていく力となつた。

避難者の問題も含め、地域での「保養」の意義をとらえ、若い世代に伝えていくためにも活動を展開していきたい。

活動の様子（写真など）









・2021年2月の講演会＆コンサートイベントチラシと会場の様子

※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。